

「岬援隊」の活動報告

(西浦地域づくり協議会〔若狭町〕 地域共助組織)



◎「岬援隊 (こうえんたい)」とは

平成27年に常神半島の3集落(常神、神子、小川)で組織する西浦地域づくり協議会の自主防災組織として発足。

令和2年に新たに2集落(遊子、塩坂越)が加わり、同隊の再編成を行った。半島全体で連携できる体制になったのを機に、防災のみならず、除雪、海岸清掃や高齢者支援など、活動の幅を広げ、地域共助組織「岬援隊」として新たにスタートした。若狭町みさき漁村体験施設「みさきち」(旧神小学校:神子)を拠点に活動を行っている。

(松本弘康隊長ほか看護師・介護職員・漁師など29名)



令和2年再編成:みさきち

◎活動内容

本隊は、住民の隣保協同の精神に基づく自主的な防災活動および環境美化活動等を行うことにより、地震その他の災害による被害の防止及び軽減、地域の景観保全を図り、災害に強く美しい住みよい地域をつくることを目的とする。この目的を達成するため、次の事業(活動)を行う。

- (1) 防災に関する知識の普及・啓発に関すること。
- (2) 地震等に対する災害予防に資するための地域の災害危険の把握に関すること。
- (3) 防災訓練の実施に関すること。
- (4) 地震等の発生時における情報の収集・伝達、避難、安否確認、出火防止及び初期消火、救出・救護、給食・給水等応急対策に関すること。
- (5) 除雪活動に関すること。
- (6) 防災資機材等の備蓄に関すること。
- (7) 環境美化にかかる啓発、不法投棄防止に関すること。
- (8) 海岸景観の保全に関すること。
- (9) 他組織との連携に関すること。
- (10) その他本会の目的を達成するために必要な事項。(高齢者生活支援(援助)活動など)



防災資機材倉庫(R2整備:みさきち)

◎活動の特徴

若狭町西浦地域は、常神半島の海岸沿いに位置する5集落からなる漁村地域であり、市街地や町中心部からも遠く、救急車や消防車などの緊急車両の到着にも時間がかかるという課題がある。また、地形的なもので道路は海岸沿いの県道一本のみで、これまで土砂崩れなどにより道路が寸断されるなど、度々災害に見舞われてきた。近年、トンネル整備でこれらは解消されつつあるが、位置的条件は変わらない。

地元の有志で組織された岬援隊は、「共助」の精神のもと、町が掲げる「協働のまちづくり」を実践すべく、様々な課題をカバーし、生活の質の向上を図り、安心して暮らせる安全で住みよい地域づくりを共通の目標に、「公助」を補う自主組織として、その都度のニーズに応じ各種活動に取り組んでいる。

◎活動の成果

高齢・単身世帯化が進む遠隔地であるが、様々な活動によりこの地域が抱える課題を少しでも解消すること、そして、顔馴染みの地元の者で構成する「岬援隊」の存在自体が地区民に馴染みがあり、安心・安全な地域づくりに繋がっている。

また、当地区は漁業、民宿業が盛んで、海を生かした観光関連産業を生業としてきた地域であり、地区内における環境美化活動の取り組み、美しい地域づくり活動が、防犯対策や観光振興にも役立っている。

今後の予定として、県・町等の協力を得ながら、地区内の危険箇所等の洗い出しを行い「西浦地域防災マップ」の作成を行う計画である。



原子力防災講習・避難所開設訓練(R2:みさきち避難施設)



松本隊長(日赤救急法指導員・防災士)による救命救急講習(R2:みさきち)



海岸清掃活動(H30:神子海岸)



除雪活動(R2:みさきち)



新型コロナワクチン集団接種会場までの高齢者移送活動(R2:接種会場)

優秀賞

若狭町西浦地域づくり協議会 地域共助組織「岬援隊」